

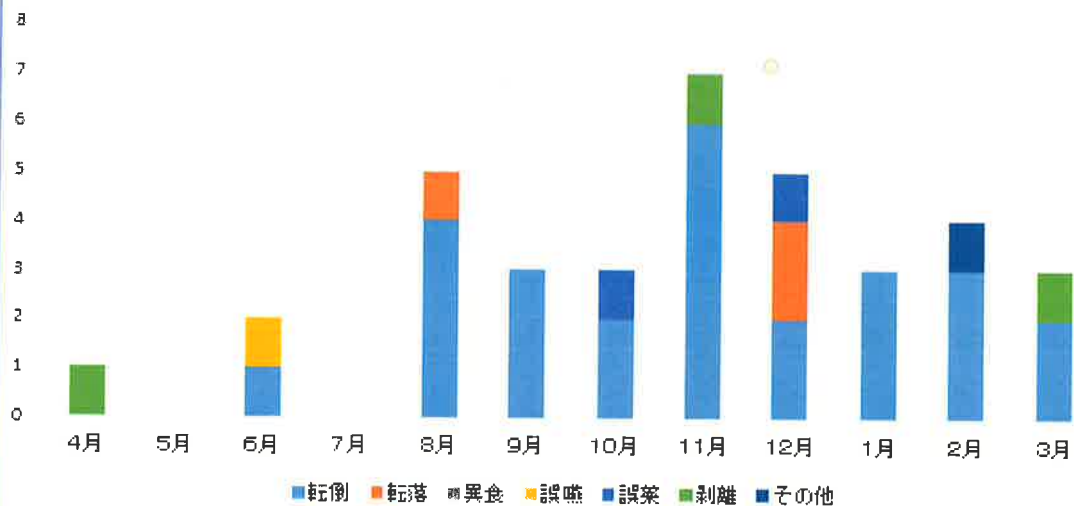
まずグループホームモーツァルトいのりでは、過去4年間で起こった事故を全て集計し、事故種類、発生時期、発生場所でグラフ化し検証することにした。

そのグラフが以下の物である。

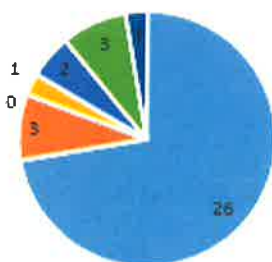
2014年度 事故件数一覧

(2014年4月～2015年3月) 合計36件

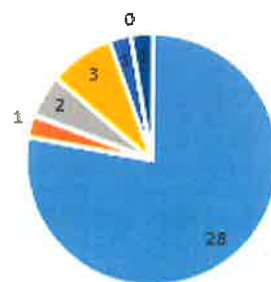
月別事故件数



事故種類



事故発生場所



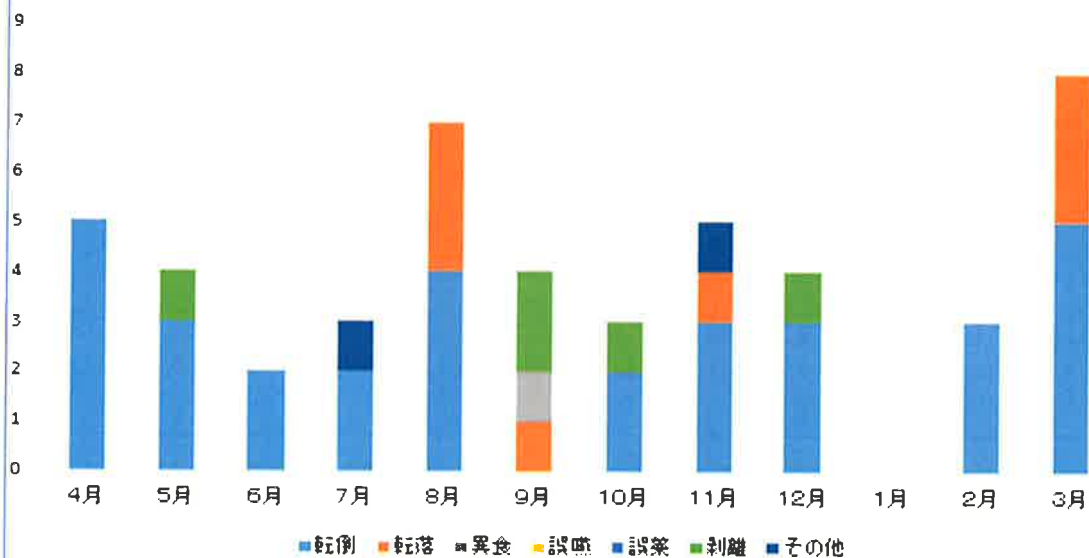
■ 転倒 ■ 転落 ■ 異食 ■ 誤嚥 ■ 誤薬 ■ 剥離 ■ その他

■ 居室 ■ 廊下 ■ 食堂 ■ トイレ ■ フロア ■ 浴室 ■ その他

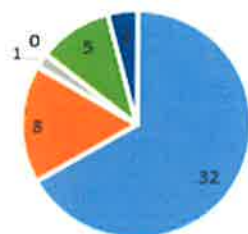
2015年度 事故件数一覧

(2015年4月～2016年3月) 合計36件

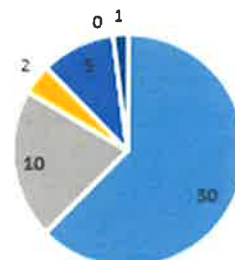
月別事故件数



事故種類



事故発生場所

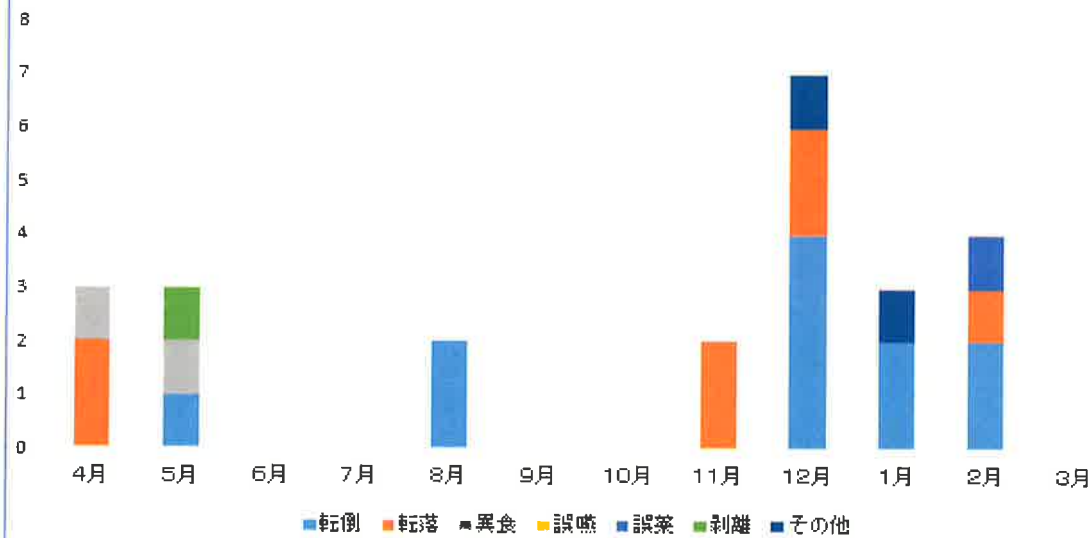


転倒・転落・異食・誤嚥・誤薬・剥離・その他
 居室・廊下・食堂・トイレ・フロア・浴室・その他

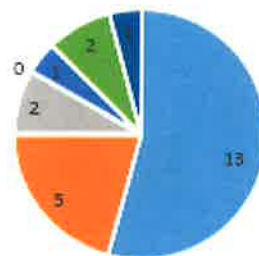
2016年度 事故件数一覧

(2016年4月～2017年3月) 合計24件

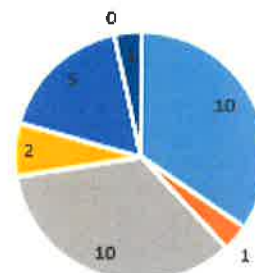
月別事故件数



事故種類



事故発生場所

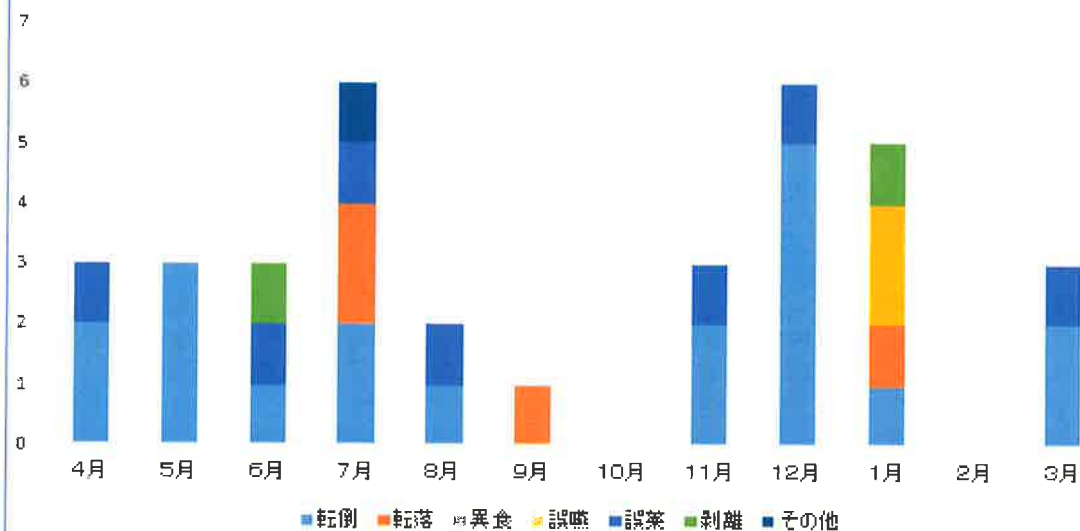


■ 転倒 ■ 転落 ■ 異食 ■ 誤嚥 ■ 誤薬 ■ 剥離 ■ その他
 ■ 居室 ■ 廊下 ■ 食堂 ■ トイレ ■ フロア ■ 浴室 ■ その他

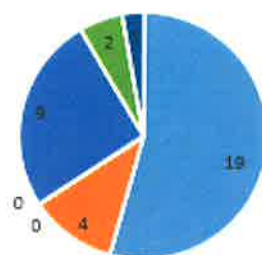
2017年度 事故件数一覧

(2017年4月～2018年3月) 合計35件

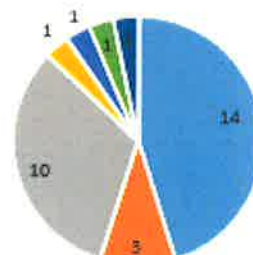
月別事故件数



事故種類



事故発生場所



■ 転倒 ■ 転落 ■ 異食 ■ 誤嚥 ■ 誤薬 ■ 剥離 ■ その他

■ 居室 ■ 廊下 ■ 食堂 ■ トイレ ■ フロア ■ 浴室 ■ その他

以上のグラフから分析した結果、一番多い
 事故種類は転倒事故、発生場所は居室という
 ことが分かった。
 特に1年間の中で居室での転倒事故があった
 ゲスト2名を抜粋し、対策会議で挙げた対策

社会福祉法人 フジの会 平成30年度事業計画 フジの会事故防止学会研究論文
部署名；グループホームモーツァルトいのり 作成担当者名；鳥居佳弘
研究テーマ；グループホームの過去4年間における事故を数値化し、対策が適正
であるか研究

を振り返り、それが正しく継続し効果があったのかを考察することとした。

まず一人目の考察対象者は大正10年生まれ、女性のF様。

2017年度は4件居室内での転倒事故があった。当時は杖を使用しての自立歩行。3件は夜間、1件は朝に起きた。

特に多かったのは、ベッドとタンスや洗面台の間で転倒されていたことで、タンスや床に頭や顔を打ち、出血したり内出血を作ったりまったりすることが見られた。

以上の事を踏まえ、挙げられた対策は主に以下の通り。

①ベッドを居室中央側に寄せ、タンスと距離を近くすることで、立ち上がった際タンスに手を付くことが出来るようにする。

②日中歩行練習や昇降運動を行い、下肢筋力の低下を防ぐ。

③床のワックスが剥げると滑りやすくなる為、

剥 げ た と 感 じ た 際 は す ぐ に 報 告 し 、 ワ ッ ク ス
が け を 行 っ て 頂 く 。

④ 夜 間 の 巡 回 を 増 や す 。

F 様 は 現 在 立 ち 上 が り 不 安 定 で 車 椅 子 で の
移 動 と な っ て い る 事 を 踏 ま え 、 現 在 の 対 策 状
況 は 以 下 の 通 り 。

① ベ ッ ド を 中 央 側 に 寄 せ た こ と で 立 ち 上 が っ
た 際 に 手 を 付 く こ と が 出 来 る よ う に な っ た 。

し か し タ ン ス と 逆 の 壁 側 に ス ペ ー ス が 出 来 て
し ま っ た こ と で 、 そ の ス ペ ー ス に 足 を 降 ろ さ
れ た り 、 転 落 事 故 が 起 き て し ま っ た り す る こ
と が あ っ た 為 、 空 い た ス ペ ー ス に 物 を 置 く こ
と で 問 題 は 解 消 し た 。

② 歩 行 練 習 や 昇 降 運 動 は 現 在 困 難 な 為 実 施 出
来 て い な い 。 つ か ま り 立 ち は 可 能 な 為 、 ト イ
レ や 入 浴 時 は ご 自 分 で 立 位 保 持 を し て 頂 く よ
う に し て い る 。

夜 間 ベ ッ ド 上 に て 端 座 位 に な ろ う と さ れ る 事
が あ る 為 、 車 椅 子 に 座 っ た ま ま 足 の 運 動 を し

て頂くようにする。

③ 現在車椅子で移動しておりご自分で歩行されることはないが、ワックスが剥げたと感じた際はすぐに報告を行うようにする。

④ 夜間ベッド上で端座位になっていたり、足をベッドから降ろしていたりすることがあり転落の危険がある為、夜間巡回は継続してこまめに行うようにする。

対策結果：現在車椅子移動の為、ご自分で起きて転倒されることはほぼなくなった。ベッドからの転落や、つかまり立ちからの膝折れ等気を付けるべきことはあるが、部署内での共有を徹底し、事故防止に努めた。い。

二人目の考察対象者は昭和2年生まれ、女性のS様。

2017年度2件、夜間に居室での事故があった。

S様は自立歩行で、20時から21時の間に

睡眠導入剤を服用される。

事故は2件ともご自分で立ち上がられた際に
発生している。

以上の事を踏まえ、挙げられた対策は主に
以下の通り。

① ベッドを居室中央側に寄せ、タンスと距離
を近くすることで、立ち上がられた際タンス
に手を付くことが出来るようにする。

② 起床してすぐ目のつくタンスに「ゆっくり
とうごいて下さい」と書いた紙を貼る。

③ 眠前薬の服用前にトイレに行って頂く。

④ トイレに行かれる際は、コールを押して頂
くようお願いする。

⑤ 配茶ポッドをベッド周りに置いて座って飲
んで頂けるよう、ベッド柵に掛けられるよう
なカゴを購入して頂く。

現在①～③は継続中である。

④ コールを押して頂くようお願いしているが、
実際にはなかなか押していただけず。今後も

社会福祉法人 フジの会 平成30年度事業計画 フジの会事故防止学会研究論文
部署名；グループホームモーツァルトいのり 作成担当者名；鳥居佳弘
研究テーマ；グループホームの過去4年間における事故を数値化し、対策が適正
であるか研究

継続してお伝えしていく。

⑤ ベッド上にカゴを置いて対応すると、夜間
お茶をこぼしてしまわれることがあった。そ
の為ベッド近くに椅子を設置し、そこに配茶
ポッドを置くことで対応している。

対策結果：S様は現在もご自分で歩いて移動
されているが、2018年現在転倒事故は減
っている。

体調によって歩行が不安定になることがある
為、本人の様子観察を特に強化し、今後も事
故防止に努めたい。

以上が2名の対策と現在の状況である。

発生当時と現在ではゲストのADLも変化し
ており、全ての対策が機能しているわけでは
ない。しかし過去の事故で得た情報や対策を
全て無駄にしないよう、部署内での共有を徹
底し、これからの安全な施設作りに活かして
いきたいと思う。